

一〇〇号アンケート

衛生局 湯川光夫

1 今回の特集テーマについて

- ・どちらともいえない
- ・今回の執筆者について
- ・横浜市の職員をもっと増やして欲しかった。
- ・他都市の職員をもっと増やして欲しかった。
- ・市民をもっと増やして欲しかった。

3 今回の内容について

- ・読み易く解り易かった。
- 4 調査季報の読み方について
- ・毎号必ず読んでいます。
- 5 調査季報には、行政研究欄など自分で調査・研究している論文を発表する場がありますが、ご存じですか。
- ・知っている

6 今後調査季報で取り上げて欲しいテーマがありましたら

- ・ごみ問題をもう一度。九六

号の続きをやるべきだ。

- ・二五号の京浜工業地帯のその後を特集してください。
- ・管理職のあり方。情熱をもった仕事とは何かを考える内容のものを取り上げてほしい。

7 調査季報に対する希望、意見をお書き下さい。

- ・初心にもどって、横浜市の未来像を取りあげたらどうですか、一〇〇号の横浜論では少しものたりなかった。市長に「自分の考えはこうだ」というものを出してもらったらどうか。今の横浜市は、あいまいなものになっていく傾向なので、こうしたいと思うものをもっと出せたらどうかと思う。期待していますよ。では次回の一一二号を楽しみにしています。

アンケート

市民局 長尾政治

6 今後調査季報で取り上げて

欲しいテーマがありましたらお書き下さい。

- ・自治体の企画調整機能（企画調整機能を具体的事例をふまえて解明する）
- ・自治体の人事政策（国際化

価値観の多様化など経済社会の変動などに対応して行くのか）

- ・都市と芸術（都市の中で芸術はどのように存在し発展していくのか。行政はどのように対応すべきか）
- ・コンベンション都市・横浜（コンベンション都市・横浜の実態・課題・また海外から横浜がどうみられているのか
- ・若者からみた横浜（若者が集まる街として横浜はどのように評価されるのか、政策課題は何か）
- ・都市再開発はいま（経済情勢の変動の中で、今どういう課題があるのか）

7 調査季報に対する希望・意見をお書き下さい。

- ・「横浜、横浜」と横浜ばかりにこだわらず、他都市・地域での行政の姿・ありようも本市の施策を考える上で必要

とあらば、より積極的に紹介していただけたらと思います。

- より「論争的な」テーマについても、積極果敢に取り上げていただければ、読者としては「調査季報」に興味が増します。

△あとがき▽

調査季報一〇二号で、「89・職員の自主研究」を特集した。

丁度「よこはま二十一世紀プラン」への職員提案に応募した自主研究を掲載した。

そして今回は、「職員の自主研究・施策研究」政策研究を自指して」と題し、自主研究から施策研究、政策研究を視野に入れて特集を組んでみた。

自治体の中でも、正面から政策研究を打ち出すところができてきている。北海道自治研修所は「ほっかいどう政策研究」を一九九一年三月に創刊したが、東京都職員研修所、神奈川県自治総合研究センターと共に政策研究活動に取り組んでいる。

また本年度で八回目を迎えた全国自治体政策研究交流会議の活動も見のがせない。都道府県

や指定都市に限定することなく市町村も積極的に参加し、報告もされている。この交流会議には、横浜市職員も参加し、事例発表も行っている。

さて、それでは横浜市職員の自主研究・施策研究の現状はどうなっているのだろうか、これから政策研究を目指してどのような課題があるのだろうかを様々な角度から考えてみた。

今回紹介した事例はほんの一部にすぎない。新鮮で実績に裏打ちされた事例がまだまだ埋もれているに違いない。

△加藤▽

「調査季報」は職員が自由に意見を発表し討論する行政研究誌です。「行政研究」への投稿も歓迎します。二〇〇字詰五〇枚以内。企画調整室まで（電話六七一一〇二九）。

この「読者のページ」へもご投稿ください。市政、都市問題、自治体問題等、題材は自由。一〇〇〇字以内。